

## 令和7年度第2回印西市立図書館協議会会議録 要旨

- 1 開催日時 令和7年10月28日（火）  
午前10時00分から午前11時50分
- 2 開催場所 印西市文化ホール 2階 大会議室
- 3 出席委員 黒澤委員長、大和副委員長、飯尾委員、和田（亜）委員、中嶋委員、  
石ヶ谷委員、関口委員、樋口委員、久門委員、和田（剛）委員
- 4 欠席委員 なし
- 5 事務局 中嶋生涯学習課長、秋山大森図書館長、根本大森図書館副館長、  
伊藤主査、寺嶋主査、岩井主査
- 6 傍聴者 5名
- 7 会議内容 議事  
(1) 報告事項 印西市子ども読書活動推進計画（第四次）  
について（令和6年度）  
(2) その他  
その他

### 会議要旨（要点筆記）

【会議録作成のための録音機材の設置と会議公開に伴う傍聴席の設置の了解、会議成立の報告】

【課長あいさつ】

【委員長あいさつ】

〈議長〉 それでは、しばらくの間、議長を務めさせていただく。  
会議の円滑な進行に協力をお願いしたい。

【会議録署名委員の指名】

〈議長〉 はじめに、本日の会議録署名委員の指名を行う。  
名簿順をお願いしたい。今回は関口委員を指名させていただく。

【議事】

(1) 報告事項 印西市子ども読書活動推進計画（第四次）について（令和6年度）

〈議長〉 議事（1）報告事項 印西市子ども読書活動推進計画（第四次）  
について、事務局より説明をお願いしたい。

〈事務局〉 （印西市子ども読書活動推進計画（第四次）について説明）

- 〈議 長〉 私からで申し訳ないが、印西市子ども読書活動推進計画の冊子に書かれている計画の進行管理には『本計画の円滑な推進を図るため、印西市子ども読書活動推進庁内連絡会議において本計画に掲げた施策遂行状況を検証し、計画の進行管理を図ります。』とあるが、この進行管理票をまとめるにあたって、どのようなまとめ方をしたのか。
- 〈事務局〉 各課から委員を選出してもらっている。その委員が進行管理票をまとめ、更に取りまとめている。来年度、第五次を策定するにあたり今回の課題なども議題にした会議を開き進めていきたいと思っている。
- 〈議 長〉 会議を開いたのではなく、庁内LANなどで依頼をし、6年度の取り組み状況を集め図書館で取りまとめたということだが、会議はこの計画を作る時だけにしか集まらないのか。
- 〈事務局〉 年1回は会議にかけていきたいと思う。
- 〈議 長〉 令和6年度の時は意見が全く出なかったという経緯がある。それについては何回も言っているが、5年度の計画で単年度の実施結果しか掲載されてないので評価ができない。  
5年度の経過を載せてもらえれば評価も意見も出せるが、非常に評価がしにくいということと、指標がないので目標値が設定されておらず、それについても意見も評価もしにくいということを何回も言っている。皆さんからの意見を広く聞きたい。
- 〈委 員〉 5ページの『(2) 図書館における子どもの読書活動の推進』で、おはなし会については各図書館で開催している。小倉台図書館は502人で非常に活用しているが、課題のところに、どの館も参加者の増員を目標に周知方法の工夫を挙げている。今どのような周知方法を行っているのか、また今後このような周知方法を考えているというものがあれば教えてほしい。もう1点が17ページの一番上に、『学校司書との研修会等の開催』があり、活動の課題部分で、学校司書連絡会は定期的に行っているが、学校図書館担当者会議は4月初めの1回のみで、おそらく学校司書の仕事はこ

のようなことだということを伝えていると思うが、司書は毎日来るわけではないので、『学校図書館担当者の研修の充実を図っていく必要がある。』という部分で、今後何か考えている研修や、こんなことを行っていくという見通しがあれば教えてほしい。

〈議 長〉 2点について、事務局どうぞ。

〈事務局〉 図書館での現状については、各館で職員やボランティアをお願いをして、毎月おはなし会を進めている。周知方法としては、毎回ホームページや広報で日程等をお知らせし、またポスターやチラシなどを作り周知している館もある。  
現在お子様を育てている方々は、どちらかというとスマートフォンなどの電子系を使うことが多いと思うので、市のSNS等も活用したいと思う。保護者の方に対して今どきの周知方法が取れば改善できるかと思う。  
その他には、児童館などにお知らせなどを配り、おはなし会の参加者を募集するようなことも検討したいと思う。

〈議 長〉 研修関係はいかがでしょうか。今、学校司書が12名ということだが、印西市の学校は小中合わせて27校に対して司書が12名、この計画では2校に一人の配置で、計画は来年度までではあるがまだ全部の配置になっていないということですね。  
研修はとても大事だと思うので、図書館を中心にこれからも研修の機会やアドバイスなどに努めていただきたいというのが学校現場の切なる願いだと思っている。その辺はいかがか。

〈委 員〉 その件について、学校司書の立場で令和7年度の様子をお伝えすると、配置が5名増え令和7年度は17名になったが、司書は一人が2校の勤務をしているので十分な時間が確保できず、蔵書点検等は学校の担当職員が行っている。  
機械の扱い方については、随時教育センターが図書担当を集めて研修をしたり、学校に行って直接指導を行っている。

〈議 長〉 次に進めます。

〈委 員〉 学校現場にいたので、こどもたちや学校に近い情報が載っている

内容で読んでいて勉強になると思っている。司書教諭ということもあり、学校図書館担当者会議に出たことがある。中学校区の担当者の先生や司書と顔合わせをして、年次更新などについてはどのようにやっているかなどの情報交換をしているが、年に1回なので忘れてしまう。もう1回ぐらいあると良いと思いつつ、年度末や年度始めにやることが多いので、この時期の開催が良いのかなという思いもある。資料の中で18ページ『(1) 子どもの読書活動に関する情報の収集・提供 3-(1)-C』について、10月半ばにスクリレで、「ほんのタネ!」「Book de Go!」が来たのでお家の人にも紹介ができて良かったと思っている。

16ページの一番下『パソコンを活用した蔵書情報のデータベース化・活用の促進』で、システムを活用した学校間貸出しの実施は今後予定されているか。例えば、今の時期だと小学校一年生が働く自動車の本を一斉に使い始めて調べ学習を始めるので、そういう時にはいつも図書館にお願いをしているが、学校によっては時期がずれることがあるので、滝野小から六合小に持っていませんかと聞くと小規模の学校だとうまく貸してもらえることもある。他の学校がどれぐらい持っているのかを見られると良いと思っている。

学校同士で借用してもいいですか。

〈議長〉 学校間貸出しのことに対して何か答えられることがありますか。

〈事務局〉 学校図書館のシステムについては図書館とは別のシステムで、学校間での連携になる。もし図書館と連携することになると、取りまとめは教育センターがすると思うので、教育センターと図書館とのやり取りになるであろうが、現状では、学校と市の図書館のシステムは連携していない状況である。

〈議長〉 システムは連携していないが、配送が大事なツールである。白井市の場合は連絡車が図書館とセンター図書室間の他にも学校も回っているが、印西市の場合は学校にも回るようなシステムや学校だけを回っている連絡便はないのか。

〈事務局〉 スクール便を実施しており、市の図書館と学校間を年3回連携し

て回っている。

〈議 長〉 それを学校間の貸出しに使うことはできないか。今は無理でも、今後学校の連携が進んで、学校同士の貸出しがあった場合に、年3回と言わず、要望がある時に連絡便を回すなどの工夫をすれば物流の面で大変助かるのではないか。

〈事務局〉 現状はスクール便を回す形で、学校から要望があった場合には来館してもらい貸出しをすることにしている。

〈議 長〉 学校間の貸出しの希望なので、何らかの形で図書館がバックアップをしていけるような手だてを打ってもらえるとありがたいということだと思うので、考えてほしい。

〈委 員〉 学校司書の先生が増えたことはとてもありがたいと思うが、1校に一人設置してほしいという希望は要望していきたいと思っている。なぜかというと、授業に学校司書の先生が入ってくれるということで、図書室に行く回数も増えて、こども達が本を手にする機会が増えてくる。今の貸出しは週に2回だけ昼休みに行っている状態なので、学校司書の先生が1校に一人いると本当にありがたい。研修会については司書の先生の研修会があり、その時に他校の図書室あるいは公立図書館を見ることができると学校の図書室の充実に繋がると思った。

もう1つ、資料6ページで『高校生のインターンシップの受入』がある。実は大学入試が大きく変わったということを今年知った。以前は自分で点数を取らないと大学に入れなかったので倍率が高かったけれども、こどもたちが減ってきて大学も色々なことを考えて推薦入試で半分の学生を取る時代になっている。AO入試や学校指定校推薦があつて、高校に入って勉強ができて点数を取るのではなく、総合学習で自分が生涯をかけて何を勉強したいのか大学の入試に大きく影響するということを知った。

地元の祭りの時に、屋台で焼きそばを作っていると白井高校の生徒がたくさん手伝いに来てくれて、ボランティア特典やその地域でどんな活動があるのかを研究し、それを基に大学入試を戦っていこうというこどもたちがいたので、図書館でもボランティア活動や、こんなことができますということを提案していくと、高校

生や中学生も積極的に図書館に関わることができそうだったと思った。

こどもたちは電子機器がとても得意で発信力もあるので、図書館で何か発信するシステムを開発するというのも面白そうだ。それがこどもたちの大学入試にも役立つ何かができそうだったと思った。今、学力テストで入るこどもたちが半分、推薦入試で大学に入ってから何をやりたいかをアピールして入学するこどもたちが半分で知ったので、高校生のインターシップの受入の依頼はなかったとあるが、こどもたちが活用できる場がある事を知ると裾野にも広がっていきそうだと感じた。

〈議 長〉

今大変重要なキーワードをもらったと思う。前々から高校生のインターンシップは将来のこどもたちの就職や大学の進学に関わるということは聞いてはいたけれど、増々そういう傾向が高まり図書館がこどもたちに何ができるかを今投げかけてもらったので、重要視してみていきたいと思う。今貴重な情報をいただいたと思う。

〈委 員〉

印西市子ども読書活動推進計画の冊子の9ページ、『(3) 関連施設における子どもの読書活動の推進』の中で、『学童クラブは、地域の読書活動を支える施設として、大切な役割を果たします。』と、書かれているが、この表の中に学童クラブという項目が見当たらない。学童クラブと図書館の関係はどのようになっているのか。保育園・幼稚園の取組は成果が出ているが、学童クラブが出ていないのでどのようになっているのか聞きたい。

もう1つ、団体貸出しについて図書館から保育園・幼稚園、いろいろなところに団体貸出しをしているが、その時に貸出しされている本が市民の方からリクエストがあった場合、リクエストに対してどのように扱っているのか。

市外の図書館にリクエストを出すのか、団体貸出しが戻ってくるまで待ってもらうのかを聞きたい。

〈議 長〉

学童クラブとの関わりと、団体貸出しで貸出し中の本を借りたい場合、長く待たされることについてはどう対応しているのか、事務局お願いします。

〈事務局〉

まず学童クラブの関係で、他館の状況が分からないので大森図書館として説明させてもらう。大森図書館も近くに木下小、大森小の学童クラブがあり、図書担当者が頻繁に団体貸出しに来る。電話で連絡をもらい一度に何十冊かの貸出しをしているもので、引き取りは、父兄の方の時間を取った活動になるので支障もあるだろうが、わりと頻繁に何箇所もの学童クラブの利用がある。団体貸出中の資料に予約が入った場合については、いろいろな対応をしている。例えば、コミュニティセンター等についてはリクエストが入ったのでその本を取りに行くから用意しておいてくださいと言ってくるが、団体貸出期間の2ヶ月にならない内に返却されることが多いので、サイクルの速いところについては多少待ってみたり、時には連絡をしたり、時間がかかりそうな場合で他に複本がなければ相互貸借を利用したりなど、こちらの運営サイドで待っている方に迷惑にならないような方法をとっている。

〈議長〉

『印西市立図書館サービス計画』ができ、『印西市子ども読書活動推進計画』もあり、学童クラブへのサービスはどうなっているのかという質問に対して、中央図書館である職員が他の館は分からないが、大森図書館はこうなっているとの答えだったが、中央図書館には中央としての中核的な統括管理する意識を是非持ってもらいたいと思う。他の館ではどのような対応をしているかを把握していただき、計画に載せて進行管理し、サービスを推進してほしい。中央図書館の館長や事務局の方には他の館の動きもつかんでサービスを推進してってもらいたいと思った。

〈委員〉

2つあり1つ目は、おはなし会や読み聞かせの機会を充実させようということが非常によくわかるが、資料の7ページの一番上に『乳幼児と保護者を対象とした読み聞かせなどの講座の実施』があるが、これは保護者へ読み聞かせはこのようにするのですよというような指導をしているのか。

〈事務局〉

西の原保育園こあらなどは保育園に出向いて行き、幼児への読み聞かせと、お母さんたちに読み聞かせのポイント、本の選び方のポイントなどの話をしてレジュメも配っている。

〈委員〉

それはとても有効か。

〈事務局〉

こども向けの本を何冊か用意して紹介し、本を選ぶための本を持っていくと、こういう本があることを知らなかったと保護者が興味を持ち、参考になるという意見をいただいている。

〈委員〉

それはとても良いですね。読み聞かせは大人の意識の方が大事なんじゃないかと思っていて、例えば絵本でもこどもに「はい。」と渡すのではなくて、大人がこどもに読んであげるからこどもは本の楽しみを知っているが、読み聞かせは結構難しい。

照れたりするが大人が真剣にこどものことを見ながら語りかけてあげることがとても大事で、要はこどもに絵本を好きになってもらうためには親が上手に本を読んであげなければならないと思うが、そういう取り組みを私はあまり聞いたことがない。今回の第五次にあたって思いついたことを言うが、例えばビブリオバトルの読み聞かせ版のイベントをやる。具体的に言うと、大人の方が評価される。あなたの読み方はとても上手ですね。こどもが引き込まれるように語りかけてますね。と、司書や、そこに来たこども達が手を上げて評価をする。

そうすると大人の方も喜ぶのではないか。意外に評価されて私って上手なのかなとか、恥ずかしかったけど頑張って良かったと。そういうことがとても大事なような気がしていて、第五次に取り入れれば、印西はちょっと違ったことをしている、面白い取り組みをしていると捉えてもらえる気がした。

2つ目は、『としょかんつうしん』に青少年読書感想文全国コンクールの課題図書が載っているが、印西市では印西市の地区予選があるのか。運営は図書館ではないのかは分からないが。

だいたい県のコンクールがあって、県に来るまでは自治体のコンクールがあり、予選あるいは学校単位での選抜があると思うが、印西市はそれがうまくできているのかを知りたい。私は、こどもの時に作文コンクールで褒められたことがあり、それがとても嬉しくて図書館に行ったり、本を読んだりするようになった。このような機会があるのであれば、学校の予選があって、優秀な子が壇上であるいは朝会などでスピーチをして評価され、先生が褒めてあげて広報紙に載ったりすると、私はとても頑張ったな、楽しいなと思えることに繋がると思う。それがしっかり出来ているのなら良いが、まだなのであれば印西市ならではの取り組みをやる



良いチャンスで意義があると思う。やってみてはどうか。

〈委 員〉 学校関係者の立場で話すと、読書感想文はまず各担任が指導し、それを校内で審査して学年で1点。それが白井市と印西市のブロックに行き、また選ばれたものが今度は郡に行って県に行く順番になっている。

〈委 員〉 とても良い運営が出来ているということですね。

〈委 員〉 それはシステムとして行っている。司書の連絡会で、今年の課題が取り上げられると、学校でもこれを買おうと勤務校では全冊揃えた。

〈委 員〉 とても苦勞なことだと思うが、どこの自治体でもやっているレベルなのだとしたら、お金も人手もかかることではあるが、印西市独自のもっと盛り上げることができれば注目がされてこどもたちも注目もされて、もっとやろうという回転が生まれると思う。誰が考えるべきことかはわからないが、こどもたちの活動を深める機会を作るわけだから、どこかが考えていくべきだと思う。

〈委 員〉 読書感想文は毎年実施しているが、だんだん読書感想文は夏休みの宿題になりがちである。学校で指導して本を読ませて家で書いてくことにすると、なかなか書けない子が増えてきているので、色々ノートに原稿用紙を貼り付けると字では書けないが打ち込みだとたくさんのこどもたちが書くことができる。その中から良いものを選んで清書している状況である。

今年とても問題になったのは生成AIに読書感想文を書いてもらう手法が出て、その辺で文章がだんだん書けない子が増えていると思う。読書感想文までは書けないが、ビブリオバトルのように本を紹介するので出してみませんかというような、あなたの好きな本をセレクトし推薦するような何かがあると良いかもしれない。

今マンネリ化をしているので、印西市で選ばれた本だよ、〇〇学校の△△さんたちが選んだ本だよと紹介する機会があったら、とても喜ぶかもしれない。今心配なのが作文や俳句、短歌を載せる『ひざし』がなくなりそうである。職員の働き方改革で、何十年

も続いた良い活動がなくなりかけているので、こどもたちの文章を表現するところがなくなりかけており、そういう機会があると良いと思う。

〈委 員〉

私は市民募集で選ばれたが、その時に印西市をこうしてほしいとか図書館をこうしてほしいという要望を書いてくれという提案があったので、印西文学賞を創設しようということを要望した。その中には当然こどものコーナーもあって、小中学生の短編でもいいから自分でお話を書いてみませんか。それを図書館の司書、あるいは図書館に集まった利用者が読んで投票し、そこで読まれた作家を連れてきて表彰してもらおう。あるいは、市長が出てきて褒めてあげるなど、そうやって盛り上げていくことで印西市ならではの活動ができるのではないかと思った。その時の提案はあまり検討されてないみたいなので、ちょっと残念ではあるが、他の自治体ではよくやっているパターンなので、こどもたちが図書館に来たり本を読んだりするという活動が深まるので、次回があれば検討してほしいと思った。

〈議 長〉

時代はどんどん移り変わっていくので、図書館もどういう事業に取り組んでいけば良いのか貴重な意見をいただきながら進めていくことも大事だと話を伺いながら思った。

〈委 員〉

私も2点あり、最初は1ページ『(2)図書館における子どもの読書活動の推進』で中学生高校生のことが書かれており、先ほどもインターンシップの話が出たが、中高生のワークショップをしている。私も協議会委員になり、印西市の図書館の今後のことを考えるようになったが、中高生に考えさせてある程度導入もしながら、自分たちでこの地域でどういう図書館が欲しいか、どういう生活がしたいか、シニア・子育て世代の人も増えていて、彼らが地域の大人にインタビューをして、図書館の将来像を彼らに考えてもらおう。インターンシップや職業体験学習の受入と書いてあるが、更にそのような可能性も今後の計画として検討してほしいというのが1つある。もう1つはコスモスパレットの図書館としての利用価値、利用の可能性がもっとあると思い、今後の希望である。

ライブラリーの機能があるので、月に何度か借りたり返したりを

しているが、それだけではもったいないと思う。私も何度か行くのでいろいろな人が集まっているのに気がついた。子育てや福祉の機能もあるし児童館もある。検診で行った大ホールは素敵だし、広いスペースにカフェもある。そこで時間待ちをしている人もいれば本を読んでいる人もいて、図書館がその性質の場所からはみ出していくことは、他の図書館でもやっていることだし、可能性というか、サードプレイスというか、そこでお茶を飲んでもシニアの夫婦もいれば、しっかり勉強をしている大学生もいる。今そこで本の貸出しを行っているけれども、美術のギャラリーもあれば音楽のコンサートもあるので、そういう時に関係する本を展示して、各館でやっている企画をコスモスパレットでも実施し、行われるコンサートやギャラリーの仕様に合わせた展示などをしていくと、可能性が広がるのではないか。あの場所が融合したような、市民のいろいろな人が集まる場所になっているので、そこに図書館も入り込んでいくような可能性があったら良いと、6年度までの資料を読んでの要望です。

〈議長〉 次期計画に向けてのご意見としてありがとうございます。

〈委員〉 いつも図書館に団体貸出しをお願いすると、あっという間に6館から書籍を集めてくれて、学校現場がいつでも使えるように用意してくれることに感謝している。

私からはまず質問事項を1点。前回の会議の時に、移動図書館の件と公民館に本を置いてほしいという話があったが、進捗状況は。六合小学校のこどもたちが本を借りに行く印旛図書館が使えない状態になっているが、おはなし会に六合小学校のこどもはどれくらい参加をしているのか。出張おはなし会や、移動図書館が年間に1回でもあればと思う。例えば、読書週間の時にイベントを設けてもらえればこどもたちにも必要な環境が整えられるかもしれない。数多くは無理だと思うので、読書週間に1回くらいは計画に入れてもらえるとありがたい。

2点目は、前回の協議会で話が出た、リクエストカードを学校において、それを図書館の方にという内容を司書連絡会でしてきた。すると、誰がその本を取りに行くのか。スクール便で良いのではないか。スクール便は3ヶ月に1回だから、リクエストして3ヶ月後に届いてももう読書熱が冷めているよね。との話になった。

16ページの2-(3)-Iで、2校を一人の司書が担当していると今行っていることが精一杯で新しいことをするのはかなり難しい。私は小規模校に行っているので、私の場合は、大体どの子がどんな本が好きで、どんな本を提供したら読書の質が高まるのかを考えられるが、一人で1,000人も扱っている司書が、個別にこどものことを理解しながら本を提供してくるのは、かなり厳しい。

資料を読むと、読書の質を高めるという言葉が散見されていて、読書の質を高めるために学校としては児童理解が一番の前提になってくと思う。読書の質を高めるためにも、司書の配置を多くしてほしい、提案です。資料を見てみると、指導課教育センターが担当課になっている部分が非常に多く、学校の先生たちの質問に対して図書館では答えられない内容が結構あると感じるので、この場に教育委員会の図書担当の先生が入ってもらえると、もっと学校、図書館が連携しながら質を高められるような提供の方法を模索できるのではないかと考えた。

学校保護者対応のベースは学校にあるので教育委員会が指導の下で、各学校でその保護者を啓蒙するようなイベント的な催しがあると良いと思った。来年度から教育委員会の図書担当指導主事に来てもらい協議会を進められると良いと思った。

〈議長〉                      ご意見として伺うことでよろしいですか。次にお願いします。

〈委員〉                      資料に対しての意見はないが、この中に印旛児童館の活動内容が数点あるが、現在印旛児童館はそうふけの方に行っていて、印旛地区のこどもたちはなかなか図書館の本に触れる機会が減ってしまった。実際のところ移管した後の印旛支所の臨時窓口ではどれぐらいの貸出件数やリクエストがあったのかを知りたかった。私の体感的には、その場に本がないということは非常に図書を借りる気持ち、機会として随分減った。本に興味がある親としては、その場に本がないので、実際私は小倉台図書館まで娘を連れて行っているような状況だった。

私自身が印旛図書館に週に2、3回通っていたがぐっと減り、月に2回ぐらい、リクエストの本を取りに行く程度利用になってしまった。令和9年3月まで開館することはないので、それまでにこどもが本に触れる機会が本当に減ってしまうため、私の方で

も提案できることがないか考えたが思いつかず、何か対処をしてほしい。

先程、印西市のホームページで、印旛児童館に関する広告の内容が挙がっているのを見た。印旛児童館は今ふれあいの里で行っているが、実は未就学児に対してのみ開放している状況で、小学生が児童館で活動することができていない。

これに関してはホームページの一文として、『移転後小学生以上の児童は利用ができなくなります。』と、断定されている。『不定期だが、小学生以上対象の事業を印旛地区などで行う予定です。』と、掲載されている。これに付随し、印旛図書館側としては小学生に対する事業に本を扱うこととして何か食い込んでももらえないかと思う。臨時窓口の貸出の場所としては、本を置く場所も市民が活動する場所も正直ない。そのため、提案したくても、こどもが触れ合う場所がないことにはどうにもならないが、まずは印旛児童館側が印旛地区で何か事業を行うという意思があることが見受けられ付随する形で、本に関して印旛図書館に何か関係してほしいとの提案です。

〈議 長〉

令和6年度の実績についての話し合いで、第五次につながるからという意見も伺っている。各施設の改修は大変大事なことでそれは理解していただいていると思うが、長い期間閉館になるので、こどもたちが本に触れ合う機会が減る。幼稚園や保育園の図書の充実、学童保育の図書の充実、学校図書の充実など、公共図書館が使えない期間にその辺の手当なども含めながら改修を進めていけると良いと思う。何か事務局の方からあるか。

〈事務局〉

児童館事業の中での図書の活用ということで、児童館と協議になるかと思うが、意見については参考にさせていただき、来年度の児童館事業の中で何かできないか考えていきたいと思う。

〈委 員〉

折角意見が出たので、印旛と本埜図書館の休館期間に関しては何か手を打ってほしいということを2回前の協議会で話している。それが移動車図書館なのか、図書館を活用するのが良いかは分からないが提案させてもらった。我々の立場は諮問なので意見を言うことでそこから先は判断してもらっているが、このような声上がる。まだ1年以上あるので、計画の中で検討するのではなく

て具体的にやってみたら良いと思う。移動車が難しく印旛の臨時窓口の本を置くスペースもないというのであれば、それ程予算もかからないのでプレハブを作れば良い。

それが無理なら他の手立てでも良いが、計画を検討すると言われてもそうですかとなるので、具体的な何かをしてほしい。言いすぎですか。

〈議 長〉

貴重な意見だと思う。

学童に団体貸出しで、その期間は大量に貸出しをするなどの、何か手を打ってみても良いと思う。

〈委 員〉

資料の17ページ、『(5) 関連施設・読書ボランティアなどの連携・協力』で、年報にも載っているが令和6年度からの共催事業で、木刈親子読書会は小倉台図書館のおはなしの部屋を使い月に1回読み聞かせをやっているが、市民活動団体の事業は子ども読書推進計画の中にはカウントされないのかと寂しく思った。

もともとの項目として無かったので載らないのかとも思ったが、令和6年、7年も行っていて、図書館と繋がりもあるし、市民活動団体が役に立てればと思っているが、この先のことを考えた時に載せてカウントしてもらい、図書館スタッフと私たちで打ち合わせを重ねより良いものを続けていけたら、それは本当に子ども読書推進活動の一部になるのではと思う。

〈議 長〉

私からは、第四次が出来上がった時にも協議会委員をしており、その時に事務局が生涯学習課から図書館に移管された。事業課のところに各課にまたがる進行計画と進行管理を任されたということは非常に大変で苦勞な事だと思う。

この第四次をもらった時に一番びっくりしたのは学校司書の配置だった。何回も言うが周りの市町は随分前から全校配置が行われているのに、印西市は令和8年度までの計画で2校に一人を目指すというところに大変びっくりした。こどもと本を結ぶ学校司書が全校配置にならないということは読書を普及する上で大変不足のことだから、2校に一人と言わずこの5年間のうちにでも1校に一人の配置をお願いしたいと言ってきた。徐々には進んできているが、できるだけ早い配置をお願いしたいと思う。

こどもと本を結ぶのは大人の役目だと思うのでお願いしたい。

来年度予算がスタートする時期で第五次の計画が始まるにあたり、印西市子ども読書活動推進計画策定庁内連絡会議設置要綱の第1条に書かれている『策定に関わる調査研究』とはどのようなことを計画しているのか、予算絡みで何か考えているのか。

〈事務局〉

国や千葉県も同じように子どもの読書活動推進計画が出されており、まずそれを参考にさせてもらう。また、いろいろな図書館が出している資料も参考にしたいと考えている。

〈議長〉

希望としては、小中学生、高校生、大学生にもアンケートをしてどのような読書支援が必要か、どういう読書傾向にあるかの調査研究を取り入れてから、調査結果を取り入れて計画に盛り込んでくればと考えている。予算がかかるものとかからないものがあると思うが、是非考えてほしい。

2点目として、要綱第3条に連絡会議は庁内の関係課の職員しか入っていない。こどもの読書活動の推進のねらいは、地域・家庭・学校が連携協力してこどもの読書活動を支援するという狙いがある。庁内職員だけでなく、外部の職員を是非入れていただきたい。庁内の職員では情報や現状を捉えるには無理があるので、学童・文庫・幼稚園・保育園の方などの外部の方を入れていただきたいと要望する。予算も絡むことかもしれないので、早めに動いていただきたい。

3点目で、進行管理票の作成にあたり、指標と目標値の設定をお願いしたい。例えば、ブックスタートなら、指標としては配布率を設け、目標値としては90%を配る、100%を配るなど、指標と目標値を入れればどのような動きをしているのか、私たち委員が分かりやすい。それで意見と評価ができると思う。事務局も各担当課の方も分かりやすいと思うので、そのように進行管理をしてもらいたい。

4点目として、表中の成果欄は令和5年分の経過も入れていただきたい。表の区分に内容が2つあるので、事業に対しての内容、取り組みを事業にしてもらいたいと思う。

来年度予算がスタートしているので漏れのないように、今の委員の任期は2月か3月の会議が最後の委員だと思うので、来年度は会議に参加しない場合もある。是非今の意見を少しでも反映していただきたいと思っている。こどもの読書活動を推進する上では

何か広がりが見えると良いと思っている。皆様から言いそびれたこととか、何かあればお伺いする。

〈委 員〉

皆さんの話を聞いての思いつきですが、中学生も例えば教科書を読んで内容を表す帯を作って掲示する。

あるいは図書室にお薦め本にこどもが作ったポップを飾るなどの活動をしているので、市の図書館でも募集をして連携していくのもおもしろい。なかなか文章が書けない、感想文が書けないというところもあるが、ビブリオの話もあったが〇〇君のお薦め本だと図書館で展示をしたりすると、僕が薦めたものが飾ってあるとこどもは認められて喜ぶ。選択の授業があった時は、ショートショートをこどもたちに作らせ、冊子みたいな形にして図書室に置く取り組みもした。そのようなものをコンクールではないけど、物語作りなどを募集するなど、印西市独自の取り組みがいろいろあると良いという話もあり、こどもたちと連携していけると良いと思う。

〈議 長〉

ヤングアダルトサービスなど、是非小中高校生の意見を図書館の業務の中に取り入れ、今話があったポップの掲示などを活用し、活力をもらえたら良いと思う。

印西市の学校は27校あるが、図書館が6館で担当の学校は決まっているのか。地域ごとに明確に割り振り、大森図書館はこの学校がサービスエリアと決まっているのか。

〈事務局〉

管轄エリアは図書館サービス計画の中に記載している。各館の管轄エリアは地区ごとであり、学校単位ではない。

〈議 長〉

学校連携は大変重要な図書館サービスの一つだと思う。大森図書館に全て来てしまうと大変なので、この学校はこの図書館がサービスエリアみたいな形で決めていくと、もう少し仕事が進めやすいのではないかと思います。

〈事務局〉

サービスエリアということで、各館に近い小学校中学校をエリアで担当しエリア図を作っている。団体貸出しなどの希望がある場合は、まずエリアの図書館に依頼してくださいとのお願いはしている。



- 〈議 長〉 団体貸出しの依頼があったら配送はどうしているのか。
- 〈事務局〉 受け取りたい図書館を学校に決めてもらい、その図書館で賄えない資料を全館でどれだけ集められるかを調整し、受取図書館に集め、用意ができた旨の連絡をして引き取りに来てもらうシステムになっている。
- 〈議 長〉 印西市の連絡便は今毎日回っていて、希望の本を一日のうち、または遅くても次の日には回ってくる。連絡便が毎日回るのはすごいと考えているが、学校へのスクール便が3ヶ月に一遍、それは長すぎる。物流は大事だし、学校司書は2校に一人しかいない。1校に一人でさえも取りに行くのは大変なので、学校に回す便をもう少し頻繁に動かす業者との契約を結んでくれると良いと思う。そうすると、図書館へも頼みやすく本もきちんと回ると思うので、希望だがお願いします。
- 〈委 員〉 今年何件か団体貸出を利用し、大変ありがたく思っている。細かいことで申し訳ないが、団体貸出利用をした場合、箱を持って行くことになっているが忘れやすい。箱ごと貸してくれるようになったら教えてほしい。
- 〈議 長〉 貴重な意見というのは小さいことだけど、とても大事なことで、図書館司書と学校司書の密な連絡や、やる気がとても大事なことでと思う。他に何かありますか。  
第四次子ども読書活動推進計画はよろしいですか。  
要綱には書いてないが、この後教育委員会に今出た意見を表とともにまとめて上げてくれるということで、認識してよいか。教育委員会に報告となっているが、協議会のことは書いてないが協議会で意見と承認を求められて良い意見がたくさん出た。教育委員会に出た意見を添えて報告書があげられるのか。意見だけ求められるのではなく、協議会からはこういう意見があったということの報告をお願いしたいと思う。  
第四次子ども読書推進計画は了承されたものといたします。

〈議 長〉                    その他について事務局より議事があればお願いします。

（２）その他 生涯学習に関する事務の一部と文化、文化財に関する事務の市長部局への移管について

〈事務局〉                    （生涯学習に関する事務の一部と文化、文化財に関する事務の市長部局への移管について説明）

〈議 長〉                    大変重い報告があった。市長の施策ということでよろしいですか。協議会委員に意見を伺って良いのか。

〈事務局〉                    ご意見があれば。

〈議 長〉                    大変重たい議題だが、千葉県内で図書館が市長部局のところはないですか。初めての事例かと思うが、何か意見があるか。

〈委 員〉                    １０月３日に開かれた総合教育会議を傍聴した。普段は２０人くらい傍聴人が来るが、その日は５人。行政組織に関わるのに人数が少なく YouTube での配信もなかった。私は、どんな会議になるのかと参加したら、この内容でとても驚いた。  
教育委員会から図書館が外れてしまうことは、学校図書館と図書館の連携協力を拡大しようとしているのに、離れてしまったらスムーズな協力や連携ができるのかと心配。移管するには条例が執行されるわけで、執行されれば市長が変わっても代々続くことであり、今の市長がその条例を作って政治的や思想的に図書館を利用することはないと思うが、将来市長が変わったときに市長の思いで図書館にこの本置いてはいけない、こういう本を買いなさいなどと、図書館の政治的、中立や公平、民主主義が守られるかが心配である。図書館はこどもから大人までが公平に使えるところだと思っている。市長がこの移管を進めるのは、市民がもっともっと図書館を良く使えるように図書館のことを思って移管を考えていると思うが、移管が市民のために本当に良いことなのかとても心配だ。

〈議 長〉                    他の方の意見も聞きたい。

〈委 員〉 これは何を意図として行っているのかが分からなかったので、今話がでたような懸念があるのなら、重大ですね。それは聞きたいと思う。

〈議 長〉 他に意見はあるか。

〈委 員〉 私は傍聴はしていないけれども話を聞いて、まずは市長が図書館というとてもポテンシャルの高い公共施設をこれからのまちづくりの拠点と捉えて自らテコ入れをして動き出したと、そのことはとても嬉しく思う。スピード感もすごいと感服したが、その一方で市長部局に移管ということに、そもそもの疑問が浮かんでしまった。印西子どもの文化連絡会は、図書館をより良くするために自ら勉強をして、いろいろなまちの図書館を見学している。それで分かったことだが、地方自治体の行政組織は市長が率いる市長部局と、教育長教育委員会が率いる教育部という独立した組織の2本柱構造になっていて、日本の地方自治体のほとんどがそうだ。教育部は市長の傘下ではない、独立していることが驚きだった。これは深い話で、戦後日本がこれから民主主義国家としてやっていこうという時にアメリカからの指導で、教育は国民主権において国民の知る権利、学ぶ権利、自由に物を考える権利を支える大事なもので、時の権力者の意向に左右されてはならない。教育においては政治的な中立性、継続性、安定性が保たなければならない。だから市長部局とは切り離し独立した組織なのだと知った時に個人的に感動し、民主主義の土台があるのだと思った。そもそもの、法律、憲法から見れば、教育部はそれで良いのか。原理原則に照らし合わせた時に、教育部の中の社会教育部門のほとんどが市長部局の方に移管になる形なのでそれで良いのか。それに対する議論がどう交わされたのか、どういう経緯でそういうことになったのかと思い、説明があると良い。

〈議 長〉 他に何か意見は。教育委員の方との審議は11月にあるということですね。  
意見交換は10月3日で終わりですか。

〈事務局〉 総合教育会議での説明は10月3日で終わっており、11月の定例教育委員会の会議の場で、合議をしていただく。

- 〈議 長〉 教育委員会会議だから市長は出ない。法律上クリアしていることは今伺ったが、教育委員の意見は聞いてくださいという法律だと思うので、それが11月に聞くということですね。
- 〈事務局〉 それに限らず、教育委員会として、この議案で良いかどうかを会議の場で図るものです。
- 〈議 長〉 教育委員は見識のある方たちがされているし、どれほど図書館に興味を持って利用しているか分からないが、教育委員がどのような意見を持っているのか、注視していきたいと思う。次回の会議の時はどのような意見が出たかをぜひ教えてほしい。意見がないようなので、議事はこのあたりで終了とさせてもらうが良いか。他に意見はないか。
- 〈委 員〉 2ページ目に書いてある趣旨を見て、市長部局に移管することは、よりスピーディーに対応する意思があってするのか、学校現場の先生たちの働き方改革のためにするのか。教育現場から図書館が別に離されるのかが分からない。体制を整えると書いてあるが、離れて学校は学校でもっと充実させなさいということなのかが分からない。
- 〈事務局〉 組織を担当している総務部総務課行革推進係の方で作った資料となるので、一般的なことが書いてある。話にでたように教職員の働き改革という側面があるのは確かだが、その上に書いてある地域コミュニティとの連携で図書館や公民館と連携していくことが大前提にある。
- 〈議 長〉 まだ何かありますか。どのような結果になったか、次回伺いたい。他にないようでしたら、事務局に返します。
- 〈事務局〉 貴重な意見をありがとうございました。令和7年度第2回印西市立図書館協議会を終了します。第3回の会議は令和8年2月下旬を予定しています。本日はお疲れ様でした。

令和7年度第2回印西市立図書館協議会の会議録は、事実と相違ないので、当協議会は、これを承認する。

令和7年12月24日

印西市立図書館協議会

委員 関口 佳穂里